

### 第3章：地域価値観／地域活動・社会活動について

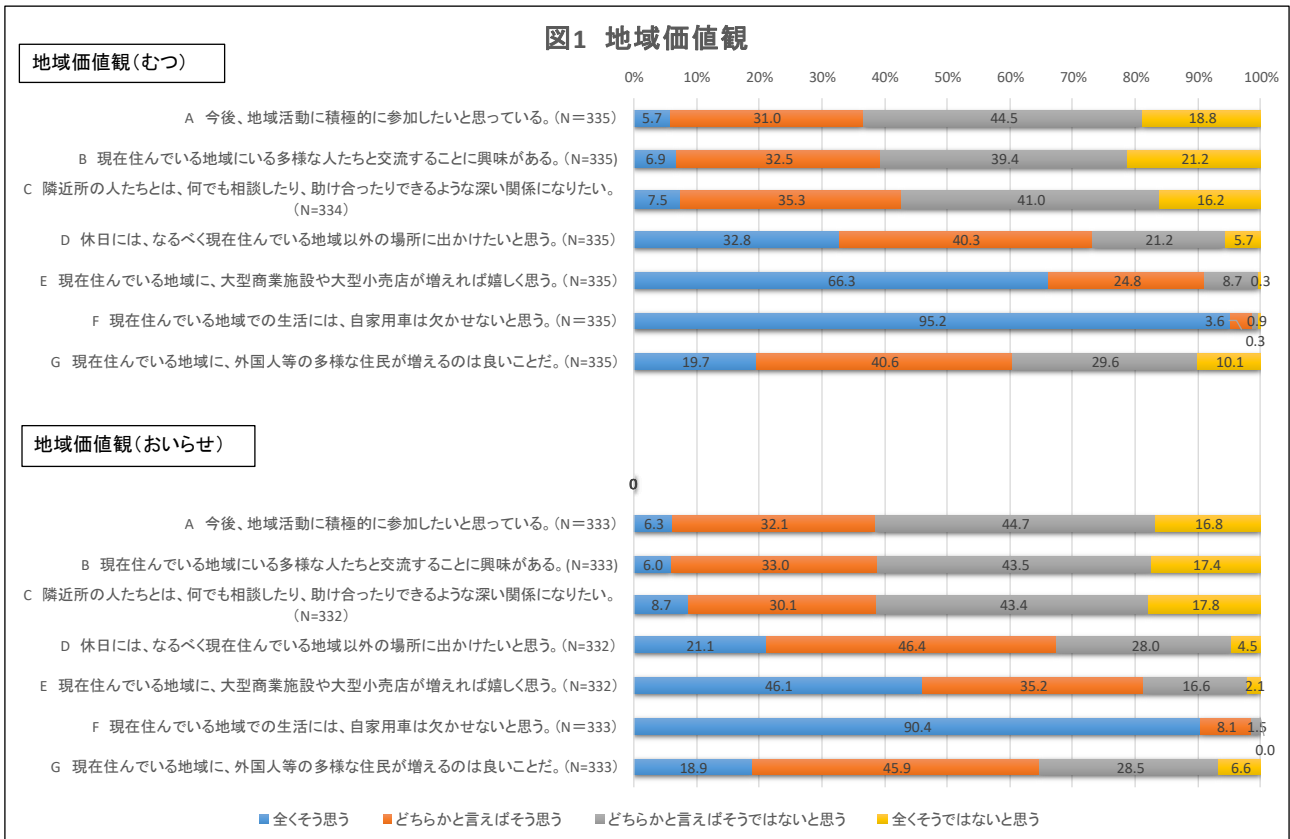
井戸聡（愛知県立大学）

#### 3-1. はじめに

この章では「地域価値観」と「地域活動・社会活動」についての検討を行う。

#### 3-2. 地域価値観について

問3では「地域についての価値観」について7項目の質問を行った（図1）。



肯定的な回答（「全くそう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計）と肯定的ではない回答（「どちらかと言えばそうではないと思う」と「全くそうではないと思う」の合計）と、むつ市、おいらせ町の2つの地域の関連について、 $\chi^2$ 乗検定を行ったところ、1項目を除いては、有意差はみられなかった。

むつ・おいらせの2つの地域で、差が見られた質問項目は「E現在住んでいる地域に、大型商業施設や大型小売店が増えれば嬉しく思う」であり、5%水準での有意差であった。「大型商業施設・大型小売店」が増えてほしいという回答について、おいらせ町が81.3%であったのに対して、むつ市の回答は91.0%で、むつ市の方が「大型商業施設・大型小売店」が増えてほしいという回答が約10ポイント多かった。

また、有意差は確認できなかったが、「D休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思う」という項目についてのそれぞれの地域の肯定的な回答の割合は、むつ市が73.1%、おいらせ町が67.5%であった。有意確率は0.109と10%の水準をわずかに満たさないが、むつ市の方が「休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたい」と思っている人が多いという傾向が読み取れるのではないかと考えられる。

むつ市は、おいらせ町に比べて、大型商業施設・大型小売店を望み、また、休日になるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思っているという傾向が読み取れる。おいらせ町に比べて、むつ市の方が、地域内の商業施設や休日の外出先に恵まれておらず、おいらせ町を「地方中枢拠点地域都市圏」、むつ市を「条件不利地域圏」（轡田2017）と想定した場合の2つの圏域の地域的条件の差が現れている部分であると考えられる。

ただし、地域価値観についての質問項目の中で、肯定的な回答の割合が高かったのは、むつ市、おいらせ町ともに、「F現在住んでいる地域での生活には、自家用車が欠かせないと思う」（むつ市、おいらせ

町ともに98%以上)、「E現在住んでいる地域に、大型商業施設や大型小売店が増えれば嬉しく思う」(むつ市90%以上、おいらせ町80%以上)、「D休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思う」(むつ市70%以上、おいらせ町70%弱)の3つの項目であり、わずかにむつ市の方の割合が高いとは言え、おいらせ町も十分にその割合が高いと考えられ、生活環境の条件不利性を抱えた地域である、もしくは圏域の中に条件不利な地域を多く抱えている、と考えられる。

一方で、地域価値観についての質問項目の中で、肯定的な回答の割合が最も低かったのは、むつ市、おいらせ町ともに「A今後、地域活動に積極的に参加したいと思っている」(むつ市36.7%、おいらせ町38.4%)であった。

その他に、肯定的な回答の割合が低かった項目もむつ市とおいらせ町で共通しており、「B現在住んでいる地域にいる多様な人達と交流することに興味がある」(むつ市、おいらせ町ともに40%弱)、「C隣近所の人たちとは、なんでも相談したり、助け合ったりできるような深い関係になりたい」(むつ市40%強、おいらせ町40%弱)となっている。

### (1) 属性と地域価値観

基本的な属性(性別・年齢・婚姻・学歴・世帯年収・居住歴・移動経験)と地域価値観についての関連を見たのが表1である。

表1 基本属性と地域価値観の関係

		問3A地域活動	問3B多様な交流	問3C近隣関係	問3D休日に出かけたい	問3E大型商業施設・小売店	問3F自家用車	問3G外国人など多様性
性別	むつ	女<男	—	—	—	—	—	—
男・女/χ二乗	おいらせ	女<男	女<男	—	—	男<女	—	男<女
年齢	むつ	—	—	—	—	—	—	—
相関	おいらせ	—	—	—	高く低	—	—	高く低
婚姻	むつ	—	—	—	—	—	—	—
独身・結婚/χ二乗	おいらせ	—	—	—	—	—	—	結婚<独身
学歴	むつ	—	—	—	—	—	—	—
大学・短大/非大学・短大/χ二乗	おいらせ	—	—	—	—	大学<非大学	—	非大学<大学
世帯年収	むつ	—	—	—	—	—	—	—
相関	おいらせ	—	—	—	—	—	—	—
居住歴	むつ	—	—	—	地元<U<I	—	—	—
地元・Iター・Uター/χ二乗	おいらせ	—	—	—	—	—	—	—
移動経験	むつ	—	—	—	なし<あり	—	—	—
あり・なし/χ二乗	おいらせ	なし<あり	—	—	—	—	—	—

「<」は5%水準で、「<」は10%水準で有意。

性別において、有意差がみられる項目が多く現れており、婚姻、世帯年収、居住歴で有意差がみられる項目が少ないか全くない。また、「G現在住んでいる地域に、外国人等の多様な住民が増えるのは良いことだ」の項目で、基本属性による有意差が多くみられる(性別・年齢・婚姻・学歴)。

#### ① 性別と地域価値観

性別と地域価値観についての関連において、有意差がみられた項目が多かったのはおいらせ町であった(4項目)。おいらせ町で、性別において、有意差がみられたのは「A今後、地域活動に積極的に参加したいと思っている」「B現在住んでいる地域にいる多様な人達と交流することに興味がある」「E現在住んでいる地域に、大型商業施設や大型小売店が増えれば嬉しく思う」「G現在住んでいる地域に、外国人等の多様な住民が増えるのは良いことだ」の質問項目であった。「A地域活動に積極的に参加したいと思っている」と「B地域にいる多様な人たちとの交流」については女性よりも男性の方が多く肯定的に回答し、また、「E大型商業施設・大型小売店が増えれば嬉しく思う」と「G外国人等の多様な住民が増える」については男性よりも女性の方が多く肯定的に回答した。

そのなかで強い関連が見られたのは、「G外国人等の多様な住民が増える」の項目に関する性別における有意差であった。この項目に対する肯定的な回答の割合は、女性で71.0%、男性で58.0%であり、10ポイント以上の差があった。一方で、むつ市では、同項目に対する肯定的な回答は、女性で62.5%、男性で58.2%であり、性別による有意差はみられなかった。

むつ市において、性別による有意差がみられたのは「A今後、地域活動に積極的に参加したいと思っている」の項目のみであった。この項目に対しては、先述のようにおいらせ町でも関連を読み取れるが、より強く関連しているのはむつ市の方であった。むつ市では、肯定的な回答の割合は女性で28.9%、男性で42.9%であり、10ポイント以上の差があった(おいらせ町：女性34.1%、男性43.3%)。

## ②年齢と地域価値観

年齢と地域価値観についての関連において相関分析を行い、その結果、有意であったのはおいらせ町のみであり、むつ市では年齢における有意な関連は確認できなかった。

おいらせ町で、年齢において有意な関連がみられたのは「D休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思う」と「G現在住んでいる地域に、外国人等の多様な住民が増えるのは良いことだ」の質問項目であった。いずれの項目においても、年齢が低いほど肯定的な回答の割合が高くなる傾向を示している。ただし、相関係数（スピアマンのロー）は $-0.114$ （地域以外の場所に出かける）、 $-0.121$ （外国人等の多様な住民が増える）と極めて弱い相関を示しているに過ぎない。また、年齢を20代と30代に分け、上記の2項目を2段階に分けた場合でのクロス分析を行った場合、「地域以外の場所に出かける」では20代（年齢が低い層）の方が、30代よりも肯定的な回答の割合が高かったものの（20代71.2%、30代64.8%）、有意差は確認できなかった。「外国人等の多様な住民が増える」ことについては、5%水準で有意差が確認され、20代（年齢が低い層）の方が、30代よりも肯定的な回答の割合が高かった（20代71.2%、30代60.3%）。

弱いながらも関連があると考えた場合、低い年齢の人ほど、地域内で与件としてあるものに自足しておらず、地域外の要素を求める傾向がある可能性が読み取れる。ただし、今回の調査では対象年齢を20歳から39歳としているため、限られた年齢層内での比較に留まっている。ここで読み取られた傾向が、その他の年齢層に同様に当てはまるものであるのか、また、むつ市では読み取ることができなかったこの傾向が、その他の年齢層でも見受けられないのか等については正確な議論はできない。

## ③婚姻と地域価値観

婚姻（独身・結婚）と地域価値観についての関連において、有意差がみられたのはおいらせ町の1項目のみであり、むつ市では婚姻における有意差は確認できなかった。

おいらせ町で、婚姻との関連において、有意差がみられたのは「G現在住んでいる地域に、外国人等の多様な住民が増えるのは良いことだ」の質問項目であった（10%水準での有意差）。「G外国人等の多様な住民が増える」については結婚よりも独身の方が多く肯定的に回答した。

この項目に対する肯定的な回答の割合は、独身で68.3%、結婚で59.2%であり、約10ポイントの差があった。一方で、むつ市では、同項目に対する肯定的な回答は、独身で59.6%、結婚で63.4%であり、婚姻による有意差はみられなかった。

## ④学歴と地域価値観

学歴（大学・短大／非大学・短大）と地域価値観についての関連において、有意差がみられたのはおいらせ町の2項目のみであり、むつ市では学歴における有意差は確認できなかった。おいらせ町で、学歴において、有意差がみられたのは「E現在住んでいる地域に、大型商業施設や大型小売店が増えれば嬉しく思う」と「G現在住んでいる地域に、外国人等の多様な住民が増えるのは良いことだ」の2つの質問項目であった。「E大型商業施設・大型小売店が増えれば嬉しく思う」については大学・短大よりも非大学・短大の方が多く肯定的に回答した。一方で、「G外国人等の多様な住民が増える」については非大学・短大よりも大学・短大の方が多く肯定的に回答し、「大型商業施設・商業施設」との関連が10%水準での有意差であるのに対して、「外国人等の多様な住民」との関連は5%水準での有意差であった。

「E大型商業施設・大型小売店が増えれば嬉しく思う」の項目に対する肯定的な回答の割合は、非大学・短大で83.9%、大学・短大で76.3%であり、約7ポイントの差があった。

「G外国人等の多様な住民が増える」の項目に対する肯定的な回答の割合は、大学・短大で77.3%、非大学・短大で57.6%であり、約20ポイントの差があった。一方で、むつ市では、同項目に対する肯定的な回答は、大学・短大で59.3%、非大学・短大で61.0%であり、学歴による有意差はみられなかった。

## ⑤世帯年収と地域価値観

世帯年収と地域価値観についての関連において相関分析を行い、その結果、有意な関連がみられた項目はなかった。

## ⑥居住歴と地域価値観

居住歴（地元層・Uターン層・Iターン層）と地域価値観についての関連において、有意差がみられたのはむつ市の1項目のみであり、おいらせ町では居住歴における有意差は確認できなかった。むつ市で、居住歴における有意差がみられたのは「D休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけ

たいと思う」の質問項目であり、地元層よりもUターン層が、Uターン層よりもIターン層の方が多く肯定的に回答した。なお、5%水準での有意差であった。

「D休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思う」の項目に対する肯定的な回答の割合は、地元層で56.3%、Uターン層で76.7%、Iターン層で80.4%となり、地元層とUターン層で20ポイント以上、Uターン層とIターン層で約4ポイントの差があり、「地元層」と「Uターン層・Iターン層」との間で大きな開きがあることが確認された。

一方で、むつ市では、同項目に対する肯定的な回答は、地元層で67.5%、Uターン層で68.6%、Iターン層で69.4%と有意差はみられなかった。

#### ⑦移動経験と地域価値観

移動経験（経験あり・経験なし）と地域価値観についての関連において、有意差がみられた項目は、むつ市では「D休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思う」、おいらせ町では「A今後、地域活動に積極的に参加したいと思っている」の各質問項目であった。

むつ市で「現在住んでいる地域以外の場所に出かけたい」という項目に対して、移動経験ありの方が移動経験なしよりも多く肯定的に回答した。その割合は、移動経験なしが56.3%、移動経験ありが78.2%と、20ポイント以上多かった。また、おいらせ町で「地域活動に積極的に参加したい」という項目に対して、移動経験ありの方が移動経験なしよりも多く肯定的に回答した。その割合は、移動経験なしが28.4%であるのに対して、移動経験ありが41.4%と、13ポイント多かった。なお、上記の2つの項目については5%水準での有意差であった。

一方で、むつ市において、性別による有意差がみられたのは「A今後、地域活動に積極的に参加したいと思っている」の項目のみであった。この項目に対しては、先述のようにおいらせ町でも関連を読み取れるが、より強く関連しているのはむつ市の方であった。むつ市では、肯定的な回答の割合は女性で28.9%、男性で42.9%であり、10ポイント以上の差があった（おいらせ町：女性34.1%、男性43.3%）。

#### (2) 小括

年齢と地域価値観については、先述のように、弱いながらも関連があると考えた場合、低い年齢の人ほど、地域内で与件としてあるものに自足しておらず、地域外の要素を求める傾向がある可能性が読み取れることを指摘した。

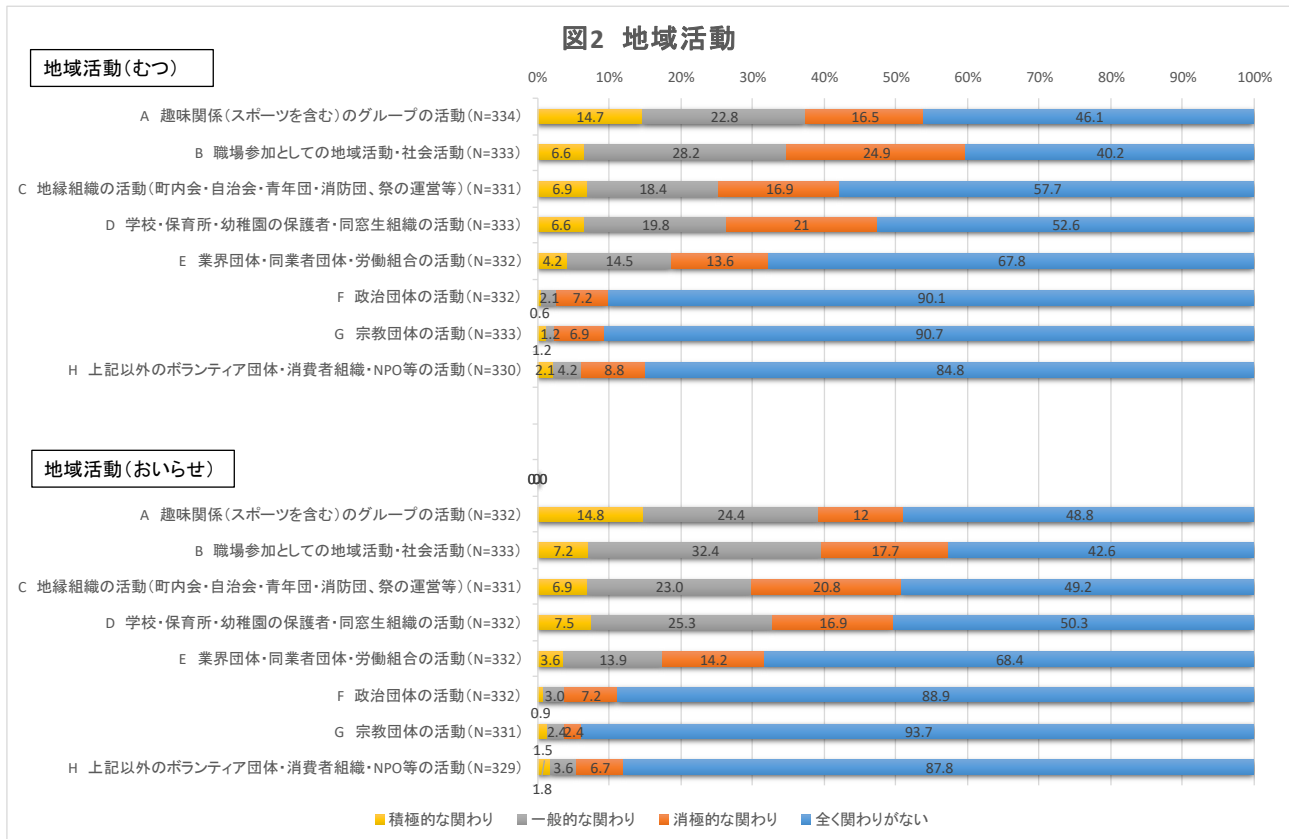
他方、居住歴や移動経験との関連では、むつ市では、地元以外での居住歴や移動経験がある方が、地域外の要素を求める傾向が認められることから、移動を伴って地域外の要素を経験している層が、地域外の要素を求める傾向があり、一方で、おいらせ町では居住歴や移動経験と、地域外の要素を求めることには関連が認められないことから、条件不利地域圏において乏しい都市的な生活環境条件をおいらせ町では一定程度得られているため、居住歴や移動経験ではなく、より若い層が地域内の与件に充足せず、地域外の要素を求める傾向となっているとみることが可能であるかもしれない。

基本属性と地域価値観との関連をみた場合、性別・年齢・婚姻・学歴が有意な関連を示した項目が多かったのはおいらせ町であった。一方で、居住歴と移動経験による違いが有意な関連を示した項目が多かったのはむつ市の方であった。

おいらせ町では、「その地域のなかで」個人がどのような社会的属性を有しているのかが、地域価値観に影響を与えやすく、むつ市では「その地域に対して」個人がどのような位置関係を有しているのかが、地域価値観に影響を与えやすいという仮説を立てることができるのではないだろうか。おいらせ町を地方中枢拠点地域圏、むつ市を条件不利地域圏と考えた場合、地方中枢拠点地域圏では個人の静態的な社会的属性が、条件不利地域圏では個人の移動と関連する動態的な社会的属性が地域価値観に影響する傾向があると言い換えることができるのではないだろうか。

### 3-3. 地域活動・社会活動について

F15では「地域活動・社会活動の関わり」について8項目の質問を行った(図2)(※「その他」については除外してある)。



肯定的な回答(「積極的な関わり」と「一般的な関わり」の合計)と肯定的ではない回答(「消極的な関わり」と「全く関わりがない」の合計)と、むつ市、おいらせ町の2つの地域の関連について、 $\chi^2$ 乗検定を行ったところ、1項目を除いては、有意差は見られなかった。むつ市・おいらせ町の2つの地域で、唯一、差が見られた質問項目は「D学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動」であり、10%水準での有意差であった。むつ市に対して、おいらせ町の方が「学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動」への関わりが多くなっている(むつ市26.4%に対しておいらせ町32.8%)。

地域活動・社会活動についての質問項目の中で、肯定的な回答の割合が高かったのは、むつ市、おいらせ町ともに、「A趣味関係の活動」(むつ市37.4%、おいらせ町39.2%)と「B職場参加としての活動」(むつ市34.8%、おいらせ町39.6%)の2つの項目であった。

一方で、地域価値観についての質問項目の中で、肯定的な回答の割合が最も低かったのは、むつ市、おいらせ町ともに「F政治団体の活動」(むつ市2.7%、おいらせ町3.9%)と「G宗教団体の活動」(むつ市2.4%、おいらせ町3.9%)であった。

また、「C地縁組織の活動」に関して、肯定的な回答と肯定的でない回答という割り当てではなく、関わりあり(「積極的な関わり」+「一般的な関わり」+「消極的な関わり」と関わりなし(全く関わりがない)と割り当てをした場合、むつ市とおいらせ町で5%水準の有意な差が確認できる(むつ市42.3%、おいらせ町50.8%)。

地縁組織の活動に関して、おいらせ町を地方中枢拠点地域圏、むつ市を条件不利地域圏とした場合、条件不利地域圏であるむつ市の方が関わりの割合が高いのではないかと予測されたが、結果はおいらせ町の方が関わりの割合が高いことを示した。轡田による府中町(地方中枢拠点地域圏)と三次市(条件不利地域圏)の調査内容とは逆の結果となっている(轡田2017, p. 77)。この点に関しては、今後の分析・考察が必要となつてこよう。

#### (1) 属性と地域活動・社会活動

基本的な属性(性別・年齢・婚姻・学歴・世帯年収・居住歴・移動経験)と地域活動についての関連を見たのが表2である。

表2 基本属性と地域活動・社会活動の関係

		F15A趣味関係(スポーツを含む)のグループ活動	F15B職場参加としての地域活動・社会活動	F15C地縁組織の活動(町内会・自治会・青年団・消防団、祭の運営等)	F15D学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動	F15E業界団体・同業者団体・労働組合の活動	F15F政治団体の活動	F15G宗教団体の活動	F15H上記以外のボランティア団体・消費者組織・NPO等の活動
性別 男/女/χ二乗	むつ おいらせ	— 女<男	女<男 —	女<男 女<男	— 男<女	女<男	—	—	—
年齢	むつ	30後≤30前<20前<20後	—	—	20前<20後<30前<30後	—	—	—	—
4段階※/χ二乗	おいらせ	—	—	—	20後<30前=20前<30後	—	—	—	—
婚姻	むつ	—	—	—	—	—	—	—	—
婚姻 独身・結婚/χ二乗	おいらせ	—	—	—	—	—	—	—	—
学歴	むつ	非大学<大学	非大学<大学	—	—	—	—	—	—
学歴 大学・短大/非大学・短大/χ二乗	おいらせ	—	非大学<大学	—	—	非大学<大学	—	—	—
世帯年収	むつ	—	—	—	—	—	—	—	—
世帯年収 相関	おいらせ	—	—	—	—	—	—	—	—
居住歴	むつ	—	—	—	—	—	—	—	—
居住歴 地元・1ターン・Uターン/χ二乗	おいらせ	—	—	—	地元<U<I	—	—	—	—
移動経験	むつ	—	—	—	—	—	—	—	—
移動経験 あり/なし/χ二乗	おいらせ	—	—	—	—	—	—	—	—

「<」は5%水準で、「>」は10%水準で有意。「≤」は若干の差異、「=」はほぼ差異なし。※F・G・H項目についてはケース数が少ないため年齢2段階で検定

性別、年齢、学歴において、有意差がみられる項目が多く現れており、世帯年収、居住歴、移動経験で有意差がみられる項目が少ないか全くない。また、「A趣味関係のグループ活動」「B職場参加としての地域活動・社会活動」「C地縁組織の活動」「D学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動」「E業界団体・同業者団体・労働組合の活動」の項目で、基本属性による有意差が多くみられる(性別・年齢・婚姻・学歴)。

一方で「F政治団体の活動」「G宗教団体の活動」「Hボランティア団体・消費者組織・NPO等の活動」については基本属性との関連が認められなかった。

むつ市とおいらせ町の両地域で、同じ組み合わせで基本属性と地域活動の項目の有意な関連が認められたのは、学歴と「B職場参加としての地域活動・社会活動」、性別と「C地縁組織の活動」、年齢/婚姻と「D学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動」の各組み合わせであった。

年齢・婚姻・学歴の基本属性は、むつ市、おいらせ町それぞれにおいて、地域活動・社会活動の各項目のなかの同一項目に対して、関連が認められる傾向があるのに対し、性別・居住歴の基本属性は、地域活動・社会活動の同一項目に対してというよりは、むつ市とおいらせ町で別々の項目に対して関連を示す傾向が確認できる。

### ①性別と地域活動・社会活動

性別と地域活動・社会活動への肯定的な関わりについての関連において、有意差がみられた項目がむつ市とおいらせ町で同数であった(各3項目)。むつ市では「B職場参加としての地域活動・社会活動」(男性40.2%、女性27.7%)、「C地縁組織の活動」(男性30.1%、女性19.7%)、「E業界団体・同業者団体・労働組合の活動」(男性24.6%、女性20.8%)、おいらせ町では「A趣味関係のグループ活動」(男性43.9%、女性34.9%)、「C地縁組織の活動」(男性35.0%、女性25.3%)、「D学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動」(女性39.4%、男性25.5%)の各3項目で性別における有意な差がみられた。ほとんどの項目において女性よりも男性の方が活動への肯定的な関わりが多くみられたのだが、おいらせ町での「D学校等の活動」の項目においてのみ、男性よりも女性の方が活動への肯定的な関わりが多かった。

むつ市では職場や業界等の活動で、性別による有意差が認められるのに対し、おいらせ町では趣味や学校等の活動で、性別による有意差が生じていた。

地縁組織の活動では、いずれの地域でも女性よりも男性の方が、関わりが多かった。

まとめると、むつ市でもおいらせ町でも地縁組織の活動の担い手は男性に偏っており、また、むつ市では職場・業界・同業者・労働組合等の仕事に関わる活動の担い手が男性に偏っており、さらに、おいらせ町では、趣味活動の担い手が男性にやや偏り、学校等の活動の担い手が女性に偏っている。

むつ市では職場、業界、地縁組織等の地域社会内での公的な場面で男性が関わっていることが多く、また、女性の方が関わりが薄いと言えそうである。おいらせ町では、むつ市のような地域社会内の公的な場面での性別による優位な差は確認できないが、学校等の子どもに関する活動において女性が関わっていることが多い、ということになる。

### ②年齢と地域活動・社会活動

年齢(20代前半・20代後半・30代前半・30代後半)と地域活動・社会活動についての関連において、有意差がみられたのは、むつ市とおいらせ町で「D学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動」、また、むつ市で「A趣味関係のグループ活動」の各項目であった。

「D学校等の活動」では、むつ市では年齢段階順に20代前半から30代後半へと肯定的な関わりが多く

なる傾向が認められる（20代前19.1%、20代後21.1%、30代前27.1%、30代後35.1%）。おいらせ町では、20代後半が肯定的な関わりが少なく、20・30代前半で関わりが多くなり、30代後半で最も関わりが多くなる（20代後13.6%、20代前33.9%、30代前33.8%、30代後44.4%）。いずれの地域でも、概して20代から30代に移行するに連れて学校等の活動への関わりが多くなる。子どもの学齢期に学校等の活動への関わりが多くなっていると捉えることができるだろう。

むつ市では、「A趣味活動」と年齢の関連で、20代後半が最も肯定的な関わりが多く、次いで20代前半が多い。30代になると関わりの割合が減り、30代後半が最も関わりが少なくなる（30代後31.6%、30代前32.3%、20代前39.7%、20代後49.3%）。

趣味活動に関して、おいらせ町では年齢が上がっても趣味活動への関わりがあるのに対し、むつ市では年齢が上がると趣味活動への関わりが少なくなる傾向があると想定することができる。むつ市を条件不利地域圏とすると、条件不利地域圏では年齢が上がると趣味活動を行う機会や場に恵まれなくなる可能性が考えられる。趣味活動が現代社会の個人にとってのひとつの居場所となりうることを考えると、むつ市では年齢が上がった場合に趣味活動という居場所の確保が困難になる傾向があるという可能性が考えられる。

### ③婚姻と地域活動・社会活動

婚姻（独身・結婚）と地域活動・社会活動についての関連において有意差がみられたのは、むつ市とおいらせ町で共通する項目としては「D学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動」であった（むつ市：独身17.7%、結婚40.5%、おいらせ町：独身22.7%、結婚47.9%）。また、むつ市では「C地縁組織の活動」と婚姻の関連において有意差がみられた（独身21.6%、結婚29.8%）。

「D学校等の活動」では、むつ市、おいらせ町ともに独身よりも結婚の方が関わりの割合が多くなる。ただし、この関連は独身か結婚かという属性の差異よりも、子どもがいるかいないかによる影響が大きいのではないかと推測される。そこで子どもの有無と「D学校等の活動」への関わりについての関連についてみると、5%水準での有意差が確認され、子どもある場合に活動への関わりが多くなる（表3）。

表3 子どもの有無と学校等の活動への関わりとの関係

むつ市		学校等の活動への関わり		合計	N
		関わりがある	関わりがない		
子どもの有無	子どもなし	13.70%	86.30%	100%	190
	子どもあり	49.60%	50.40%	100%	119
合計		27.50%	72.50%	100%	309
χ <sup>2</sup> 二乗検定		χ <sup>2</sup> 二乗値47.280 有意確率0.000			

おいらせ町		学校等の活動への関わり		合計	N
		関わりがある	関わりがない		
子どもの有無	子どもなし	17.30%	82.70%	100%	185
	子どもあり	58.80%	41.20%	100%	114
合計		33.10%	66.90%	100%	299
χ <sup>2</sup> 二乗検定		χ <sup>2</sup> 二乗値54.783 有意確率0.000			

### ④学歴と地域活動・社会活動

学歴（大学・短大／非大学・短大）と地域活動・社会活動への関わりについての関連において、むつ市とおいらせ町で共通して有意差がみられたのは、「B職場参加としての地域活動・社会活動」（むつ市：大学・短大45.6%、非大学・短大29.0%、おいらせ町：大学・短大45.8%、非大学・短大36.0%）の項目で、大学・短大の方が非大学・短大よりも関わりが多くなる。

むつ市で学歴と関連する地域活動・社会活動の項目は「A趣味関係のグループ活動」で、10%水準での有意差であった。大学・短大の趣味活動への肯定的な関わりは44.7%、非大学・短大では33.9%で10ポイント以上の差がみられた。

おいらせ町では、上記以外に学歴と関連するのは「E業界団体・同業者団体・労働組合の活動」の項目で5%水準での有意差であった。大学・短大の業界等の活動への肯定的な関わりは24.2%、非大学・短大では13.8%で10ポイント以上の差がみられた。

むつ市、おいらせ町の両地域において、高学歴である場合に職場等の活動への関わりが多くなる。また、むつ市では高学歴であると趣味活動への関わりが多くなる。

地方中枢拠点地域圏、条件不利地域圏ともに高学歴であることは職場等の活動への関わりを高め、条

件不利地域圏では、高学歴であることは趣味活動への関わりを高め、高学歴でない場合に趣味活動への関わりが薄くなる。

高学歴である場合には、職場等を通じての社会参加やつながりの機会を得やすく、そうでない場合に機会を得づらくなり、また、むつ市では、高学歴である場合に趣味活動を通じた社会参加やつながりの機会を得やすいが、そうでない場合にその機会を得にくい、と言えそうである。

#### ⑤世帯年収と地域活動・社会活動

世帯年収と地域価値観についての関連において相関分析を行い、その結果、有意な関連がみられた項目はなかった。

#### ⑥居住歴と地域活動・社会活動

居住歴（地元層・Uターン層・Iターン層）と地域活動・社会活動についての関連において、有意差がみられたのはおいらせ町の1項目のみであり、むつ市では居住歴における有意差は確認できなかった。おいらせ町では「D学校・保育所・幼稚園の保護者・同窓生組織の活動」の項目で居住歴との関連が有意であった。地元層よりもUターン層が、Uターン層よりもIターン層の方が多く肯定的な関わりがあると回答した。なお、有意確率は10%水準であった。

「D学校等の活動」の項目に対する肯定的な関わりがある回答の割合は、地元層で26.3%、Uターン層で29.6%、Iターン層で41.0%となり、地元層とUターン層で約3ポイント、Uターン層とIターン層で10ポイント以上の差があり、「地元層・Uターン層」と「Iターン層」との間で大きな開きがあることが確認された。

一方で、むつ市では、同項目に対する肯定的な関わりは、地元層で30.3%、Uターン層で24.3%、Iターン層で25.0%と有意差はみられなかったが、おいらせ町とは異なり地元層が最も多くなっている。

婚姻と学校等の活動の関連について、子どもの有無という要因を考慮したが、ここでも子どもの有無という要因を居住歴との関連で考えてみる。おいらせ町では、居住歴と子どもの有無に5%水準での有意差が確認され、「地元層・Uターン層」に比べて、「Iターン層」は25ポイント以上の差で子どもありとなる（表4）。

表4 子どもの有無と居住歴の関係

むつ市		子どもの有無		合計	N
		子どもあり	子どもなし		
居住歴	地元層	32.40%	67.60%	100%	71
	Uターン層	38.80%	61.20%	100%	134
	Iターン層	41.90%	58.10%	100%	93
合計		38.30%	61.70%	100%	298
χ二乗検定		χ二乗値1.583 有意確率0.453			

おいらせ町		子どもの有無		合計	N
		子どもあり	子どもなし		
居住歴	地元層	24.30%	75.70%	100%	70
	Uターン層	29.40%	70.60%	100%	109
	Iターン層	56.50%	43.50%	100%	115
合計		38.80%	61.20%	100%	294
χ二乗検定		χ二乗値25.596 有意確率0.000			

居住歴と学校等の活動が関連するのは、Iターン層に子どもがある場合が多く、子どもがいることで学校等への活動に関わりが多くなるからと考えられる。一方で、むつ市では有意な関連はみられない。

#### ⑦移動経験と地域活動・社会活動

移動経験（経験あり・経験なし）と地域活動・社会活動についての関連において、有意差がみられた項目はなかった。

#### (2)小括

基本属性と地域活動・社会活動との関連をみた場合、性別・年齢・婚姻・学歴が有意な関連を示した項目はむつ市がおいらせ町に比べてやや多かった（むつ市9項目、おいらせ町7項目）。そのなかで共通する3項目で同じ基本属性の関連が見られた。2つの地域で、性別、年齢、婚姻、学歴が地域活動・社会活



動への関わりに影響を与えやすい要因になっていると考えられる。一方で、世帯年収と移動経験による関連は、いずれの地域でもほとんど確認できなかった。

### 3-4. まとめ

むつ市とおいらせ町の両地域について、地域価値観と地域活動・社会活動と基本属性との関連の観点から考えてみた場合、これまでの分析から次のようなことが導き出せるのではないだろうか。

まず、むつ市であれ、おいらせ町であれ、世帯年収と地域価値観や地域活動・社会活動との関連は基本的にみられなかった。ただし、個人年収との相関分析をした場合、おいらせ町でのみ「E業界団体等の活動」との弱い関連がみられる（スピアマンのロー0.254、有意確率0.000）。

以上から、ここでは世帯年収を除いた基本属性について考えてみる。

地域価値観について、性別・年齢・婚姻・学歴・子どもの有無といった基本属性は、おいらせ町では、地域価値観項目での肯定的な回答に関連することが多く、むつ市ではほとんどの項目で関連が見られない。また、居住歴・移動経験について、おいらせ町では関連する地域価値観項目がほとんどなく、むつ市では、「D休日には、なるべく現在住んでいる地域以外の場所に出かけたいと思う」との関連がみられた。

性別・年齢・婚姻・学歴・子どもの有無といった基本属性が、むつ市とおいらせ町のどちらの地域においても、地域活動・社会活動への関わりと関連することが多く、居住歴・移動経験は関連が限定的である。

まとめると、地域活動・社会活動においては、むつ市、おいらせ町、どちらの地域においても、性別・年齢・婚姻・学歴・子どもの有無といった「その地域のなかで」個人がどのような社会的属性を有しているのかが、地域活動・社会活動との関わりに影響を与えやすいと考えられ、居住歴・移動経験といった「その地域に対して」個人がどのような位置関係を有しているのかという基本属性については、おいらせ町でのみ限定的な影響があり、むつ市では影響しないと考えられる。

一方で、地域価値観については、性別・年齢・婚姻・学歴・子どもの有無といった「その地域のなかで」個人がどのような社会的属性を有しているのかが、おいらせ町で影響を与えやすく、むつ市ではほぼ影響がないと考えられる。また、居住歴・移動経験といった「その地域に対して」個人がどのような位置関係を有しているのかという基本属性については、おいらせ町では「A地域活動に積極的に参加」の項目に限定的に影響し、むつ市では「D休日に地域以外の場所に出かけたいと思う」という項目に限定的に影響している。「その地域のなかで」個人がどのような社会的属性を有しているのかが、地域価値観に影響しやすいのは、おいらせ町であると考えられ、地域活動・社会活動に対しては、むつ市、おいらせ町どちらの地域においても影響しやすい。

表5 社会属性と地域価値観／地域活動・社会活動の関係

		地域価値観の肯定的な回答	地域活動・社会活動への肯定的な関わり
むつ市	地域のなかでの社会的属性	—	○
	地域に対しての社会的属性	△	—
おいらせ町	地域のなかでの社会的属性	○	○
	地域に対しての社会的属性	△	△

○:影響あり △:限定的な影響 —:影響ありとはいえない

その一方で、「その地域に対して」個人がどのような位置関係を有しているのかという社会的属性は、地域価値観に対しても、地域活動・社会活動に対しても、またむつ市、おいらせ町どちらの地域においても影響は限定的であるか、もしくは影響しないと考えられる（表5）。

以上のように考えた場合、地域に対する価値観は地方中枢拠点地域圏（おいらせ町）では、主に「地域のなかでの社会的属性」について考えることが検討されるべきであり、地域活動・社会活動への関わりについても、地方中枢拠点地域圏（おいらせ町）、条件不利地域圏（むつ市）ともに「地域のなかでの社会的属性」について主に検討されるべきであると言えそうである。また「地域に対しての社会的属性」については、地方中枢拠点地域圏（おいらせ町）、条件不利地域圏（むつ市）ともに、地域に対する価値観に関しても、地域活動・社会活動に関しても関連は限定的であることを踏まえて検討の対象とするのが適当であると考えられる。

・ 轡田竜蔵、『地方暮らしの幸福と若者』勁草書房、2017年